令和８年度さいたま市立海老沼小学校　第２回学校運営協議会　議事録

1. 日時：令和８年１１月１６日(月)１０：３０～
2. 場所：さいたま市立海老沼小学校　応接室
3. 出席者

豊泉日出夫　様　南中野自治会顧問
赤木　完治　様　片柳公民館　館長
橋本　　義　様　片柳幼稚園園長
山上　明彦　様　海老沼小チャレンジスクール実行委員長
川津　美利　様　地域防犯ボランティア代表、南鳳台自治会長
伊藤　剛敏　様　第二東中学校　学校地域連携コーディネーター
倉林　克昌　様　片柳地区民生・児童委員協議会会長、保護司
平野　泰久　様　海老沼小学校　PTA 会長
関根　冴絵　様　海老沼小学校　PTA 副会長
中山　　望　様　前海老沼小学校　PTA 会長

入澤真理香　海老沼小学校　校長
南部　明生　海老沼小学校　教頭
小林　明子　海老沼小学校　学校地域連携コーディネーター
以上　１３名参加

（欠席）
佐々木雅治　様　青少年育成片柳地区会副会長

【司会進行：教頭】

１．豊泉委員長、校長あいさつ
※日大跡地について状況報告（豊泉委員長より）
＜校内視察＞
２．さいたま市教育委員会より（動画視聴）
３．学校運営及び取組実践の中間報告
①学校運営（教頭）
（１）学校予算執行状況について（教頭）→計画的に執行している。
（２）不登校・いじめの現状
→Sola（そら）ルームへの人員は、校内シフトを作って配置している
→いじめの内容が細かくなってきている
→校内で連携を取り情報の共有を行っている
②全国学力・学習状況調査の結果（教務主任）

（１）国語→知識問題に弱い
（２）算数→問題文を読み、理解し、答えることに課題がみられる
（３）質問紙調査→〇前向きな子どもが多い印象。
〇タブレットを上手く取り入れられている。
〇先生たちを肯定的に捉えている。
▼スマートフォンなどの使用時間が長い

【結果から考えられる児童の実態】

・すぐに答えを知りたがる傾向
→新しい考えを生み出すことに否定的。授業においてもそう感じる。

・平日、スマートフォンなど 3h～4h 以上使用している
→学校から帰ったあとずっと使用していることになる。➡家族との対話の減少

・本を読む時間が少ない→SNS や動画視聴に時間を取られてしまう。

③令和８年度版「学力向上ポートフォリオ（中間報告)」について（教頭）

４．中間報告に基づいた熟議（含　学校関係者評価）
①学校行事の取り組みについて（教頭）→来年度入学予定９０名　※11/16 現在
②令和８年度学校評価のお願い（教務主任）
③添付資料について（教頭）
④チャレンジスクールにおける「つながり支援（仮)」の検討　（山上実行委員長より）
→不登校･行き渋り傾向の児童とその保護者に対して支援が何かできないかと考え、地域社会とのつながるきっかけ作りとして進めている。

【ご意見等】

（地域）発信方法は？
（地コ）担任を通じて発信予定。児童の選定については、担任、SC、SSW などと連を取りながら進めていく。
（地域）　近所にいる不登校気味児童について。昨年まで様子を心配していたが、進級後から、子どもから話しかけてくれるようになった。この成長が嬉しく、これからが楽しみである。チャレンジスクールの試みについても、親子で顔を出せれば、変わってくれるのではないかと思う。一方で、友人との交流が（地域では）見られない。変わってくれたらと思う。
（地域）行き渋り児童の話を聞くことがあり、気になっていた。一方で、子どもに様子を聞いてみると、そういった児童が登校した際は普段通りに接していることを知った。逆に、その保護者への対応に悩むことがあり、チャレンジスクールの企画に期待したい。手伝えることがあれば手伝いたいと思う。
（学校）行き渋りなどの児童に対する子ども達の受け入れについて、海老沼小の子ども達の良い点の一つと感じている。
（地域）学校評価について。生成 AI に答えを求めてしまう、また頼ってしまう子が多いと感じているが、学校ではどうか？

（学校）同じように感じる。テストにおける無回答率があり、それをなるべく低くするように指導していきたい。

（地域）考えることの土台作りは大切なのだが、生成 AI に頼らず教えていくのは難しいか？

（学校）小学校では生成 AI は使わせていないが、引き続き指導していく。

（地域）教育長のお話しの中で「教員を守る」とあったが、品川区では産休の２か月前から休めるようだ。

（学校）人員配置は都道府県で差があるが、そういう仕組みができたら良いと思う。

⑤その他連絡

・令和９年度始業式・終業式等の日程等について

・高齢者情報（１件）→特別養護施設等と連携を取りながら見守る

５．閉会宣言

＜児童会との会食＞